



# 濟世の心

〈発行責任者〉  
津山市山北520  
津山市民生児童委員  
連合協議会  
会長 高山科子  
〈編集〉  
総務委員会



民生委員制度創設 100 周年スローガン

支えあう 住みよい社会 地域から

# 民生委員の活動 児童委員の活動

全国で二十三万人余の

民生委員・児童委員（以下、民生委員）が厚生労働大臣から委嘱されて活動をしています。

津山市民連協は、十四地区民児協の正副会長各三名で組織され、津山市民連協には、三つの委員会があります。

## ■総務委員会

研修大会の企画・運営、広報誌の企画・編集を行います。

## ■地域福祉委員会

地域福祉に関する調査研究を行います。

## ■児童福祉委員会

児童福祉に関する調査研究を行います。

他に専門部会として**主任児童委員部会**があり、

学校等関係機関との情報交換、事例検討を行っています。

## ■民生委員の活動

\*月初めに、津山市民連協定例会を開き、それを受け十四地区民児協定例会を行っています。



\*六月二十六日に、地域福祉委員会企画の「児童福祉の父 石井十次に学ぶ」という講演会が津山文化センターで開催されました。

講師は、石井十次に学ぶ会の東森会長を初め三名の方です。岡山県は民生委員制度発祥の県。その礎を築いた人物こそが、石井十次です。

昨年十二月の改選で委

嘱された新任委員も多く早期に福祉の原点を学んでほしいという思いで、彼にスポットを当てました。

彼は、現在の岡山市東区上阿知の地で貧しい巡礼の母子から一人の男児を預かったことを契機に孤児救済の道に一生を捧げました。彼の生涯を紙芝居で朗読してください心に染みしました。

石井十次に学ぶ会は、平成三十年発足、現在の会員数は約百名。急速に少子高齢化が進む地域を豊かにし絆を深めていくために、十次の偉業を学び、広め、今に生かす活動を続けられています。



\*十四地区の民児協では、津山市民連協が決めた四つの柱をもとに、それぞれが企画し各種研修・勉強会を行っています。写真は、倉敷市の真備水害の研修と、津山消防署での救命救急・地震体験研修です。



\*各地区の小・中学校で、朝の挨拶運動を行っています。民生委員の日の五月十二日には、平成二十八年より津山市、平成三十年からは県下委員一斉挨拶運動を行っています。朝の挨拶運動は、津山から岡山県へ、そして全国へと広がっています。令和元年から岡山県警察本部からの要請により一緒に挨拶運動を行っています。



\*写真は、地域での「認知症サポート養成講座」で、認知症を知っていたが為の寸劇に参加している民生委員です。



\*赤い羽根共同募金では、街頭募金と担当地区の法人、企業、個人の篤志家に募金をお願いにまわります。



\*地域を知る事も大切なことなので、新たに区内探検を行い、地域に詳しい方から話しを聞かせていただく研修をしました。



# 『いどもまん中社会』をめざして

津山市民連協会長 高山科子

令和四年十二月の全国

一斉改選に依り、ピカピカの一年生、百十二名が津山市民連協の仲間に入って戴きました。

皆さんどんな思いだろうか？と思いつつ私の新任当時の心の中と重ね合わせてみました。

地区によって区々（まちまち）で、どんなドラマが待ち受けているか分からないからです。

令和五年四月から「こども家庭庁」が発足し、いよいよ、こどもまん中社会・地域共生社会実現に向けスタートしました。

こどもを取り巻く環境は複雑化して今までに無かった痛々しい出来事が多くなりました。

先号（済世の心第三号）で申し上げた「利他の心」が一人歩きしているよう

で悲しいです。

大家族制度が崩壊し、核家族になり、こどもも、つらい事、苦しい事などが有っても「よしよし」と包容力で迎えてくれる逃げ場、居場所が無くなっていくのです。

こども達は、この世に生まれてくれば「こどもの権利条約」「児童憲章」「児童福祉法」等に守られて成長していきます。

『こどもは地域の宝』のごとく、日本を支えてくれるであろう、こども達を町内や学校・企業・施設等、みんなで応援し、見守って行かなくてははいけません。

この度の全国の改選で一万五千人もの欠員が生じ、なり手確保に国も「地方分権改革」等、環境整備時代と共に新たな問題が全世代に多く出

来、色々と乗り越えないといけない時代になりました。

来、色々と乗り越えないといけない時代になりました。

どうぞ今後とも私達に変わらぬ御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 津山から 全国へ

津山市民連協会長の高山科子氏が、この度全国民生委員児童委員連合会副会長に就任しました。

### 高山科子氏全国民生委員児童委員連合会副会長就任激励会



民生委員制度発祥の地、岡山県から初の就任となりました。

全国的に民生委員のなり手不足、民生委員の定年問題、新たに「こども家庭庁」が発足し、益々難しい舵取りが求められる高山氏を激励するため、津山市長はじめ、地域の多くの方々に集まりいただき、五月二十八日に激励会が開かれました。

## 民生委員になって

今年一月、津山に大雪が降った日、民生委員の連絡網で「安否確認をしてください。」と電話がありました。私は担当する十四人のひとり暮らしの高齢者に電話をかけました。しかし、知らない番号からの電話に出られない人が多く、大変困りました。

その後、皆さんに私を知ってもらうために考えたのは、担当する七十五歳以上の方六十八人すべての家を訪問し、介護認定の話など身近な話題を出すことで、お互いの関係性を深めていこうということでした。高齢者の方が安心して生活できるようにすることが私の役目だと思っています。

（城西地区民児協 白石文之）

地域の事をあまり知らない私が、民生委員になってまず始めた事は、車の移動を控え歩くことでした。近所の方と挨拶を交わし顔見知りになり、挨拶は次第に簡単な会話へとなりました。

高齢者の方の中には、話を聞いて欲しい方もおられ、必要な公的支援も見えてくる事もあります。様々な支援サービスがある事を勉強させていただき、地域の方はもちろん、家族や自分自身にも繋がっているのだと感じています。

良き隣人として相手の話に耳を傾け、程よい距離で時間をかけながら信頼関係を築けたらと思います。経験豊富な先輩方の力をお借りして、自分の出来る事を一つずつ取り組んでいきたいと思います。

（東部地区民児協 北川洋子）

